

『第30回 高校生学園祭ポスターコンテスト』総評

受賞校の皆さま、おめでとうございます。今年も多数のご応募をいただき、感謝申し上げます。

例年通り選考は難しく、特定の傾向に収束していく様子に、私たち審査員は新たな課題を感じています。

今年は、目を引く構図や静と動を巧みに表現したエネルギッシュな作品を高く評価しています。その結果、現代の主流であるアニメやコミック調の作品が上位を占める傾向となりました。絵の才能とセンスを持つ方たちが、アニメ的技法を駆使して自由自在に人物を躍動させ、魅力的な画面を生み出しています。

数年ほど前の作品はもっと多様な表現が見られました。今回も、絵画的アプローチや文字だけのデザイン、独特な雰囲気を持つ作品がありましたが、それらの個性的な作品が世界観をさらに深め、基本的な描写力を高め、より力強い表現に昇華させてもらえたらなあ、と審査中に感じました。

例えば、絵画的な手法を用いる人がアニメの洗練された表現技法を取り入れたら、どれだけ重厚な作品が生まれるでしょうか。

逆に、アニメ調の手法を用いる人が絵画的な要素を取り入れたら、どのようなダイナミックで深い作品が生まれるでしょうか。

このような異なるスタイルの融合は、プロの世界では日々挑戦されている技術です。

いろいろと提言させていただきましたが、ちょっとだけ参考にいただければ幸いです。来年も、自由に、様々な表現に挑戦した素晴らしいポスターとの出会いを楽しみにしています。

講評: デザイナー 辻野淳晴

[講評]



■最優秀賞 埼玉県立朝霞高等学校

深い青と白い入道雲が織りなす鮮やかな美しさが目を引きます。控えめなサイズの「第六十二回けやき祭」の文字が、上下に配置されていることで画面に空間的な広がりを与えています。

魔法少女と箒^{ほうき}という王道のモチーフに、風になびく独創的な衣装デザインと、箒に乗る独特のポーズが新鮮さを添えています。

対角線上を飛ぶ魔法少女と、反対方向に泳ぐ熱帯魚やイルカの配置が、浮遊感と意外性を生み出しています。

中央の入道雲も、祭りの活気を象徴していて素晴らしいです。



■優秀賞 叡明高等学校

大胆な黄色の使用が目を引く作品です。黄色をここまで効果的に使って視認性を高めたポスターは、過去のコンクールでも珍しいものです。

タイトルの文字内における絶妙な配色に優れたデザインセンスが光ります。

「僕らのパラダイス」という言葉がそのまま色彩やデザインとして炸裂し、迫力を醸^{かも}し出した作品だと感じられました。

少女のポーズ、アングル、ディテールにもう少し躍動感^{やくどう}があれば最高の作品になったかと思われました。



■佳作 早稲田大学本庄高等学院

紫を基調とした神秘的な雰囲気^{げんわく}が心を捉え、幻惑される作品です。非日常という迷宮に誘われるような不思議な世界観が、学園祭の興奮と神秘性をうまく表現しています。

学園祭準備に携わった人が体験する、準備期間の高揚感、創造性、連帯感などが夜の風景として描かれることで、学園祭に秘められた奥深い世界観を表現した作品として感銘を受けました。

この画力を元に、次のアイデアに挑戦していただきたいと思います。



■佳作 春日部共栄高等学校

応募作には珍しく全体が暗い色調で統一されています。その中で際立つのが、龍から生えたかのような^{ごくさいしき}極彩色の翼。

翼には天使、墮天使、キューピッド、始祖鳥^{ほうおう}、鳳凰、不死鳥、烏、ヒヨドリなど様々な形態と意味が付与され、^{からす}慎重な描写が必要になります。

軽々に扱うことの^{はばか}憚れる翼ではありますが、よく見ると翼の主は龍でもなく、少年少女でもなく背後に控える別の存在のようです。

この点から一挙に想像力が膨らみ、不思議な物語と魅力を秘め、神秘性が増した作品です。

タイトルの遠近感と鏡面反射に作者独特のこだわりを感じました。



■佳作 埼玉県立川越南高等学校

トランプのように上下逆さまの男女が印象的です。「48時間の非日常」というコピーに「シャッターチャンス」とルビを振り、男女の手がアングルを決めるポーズを決めているという巧みな構想が光ります。

2日間の開催を表す48時間が、第48回という回数ともマッチしているのが面白いですね。

紫と青緑系の配色も、アナログフィルムを想起させて個性的です。

右上と左下の学園祭モチーフが軽音楽部寄りではなく、もっと学園祭における多様な活動が緻密に描かれていればもっと魅力が増していたかと思われます。



■佳作 埼玉県立越谷南高等学校

遠近感を強調した^{てのひら}掌のデザインが斬新です。左手、顔、右手の大きさの違いが、独特の奥行きを生み出しています。なにより透明感あふれる水の円環が作品を引き立てています。

「南高祭」の文字も水に合わせて躍動感がありますが、もっと遠近感を強調し、角度を変えてダイナミックに表現できたかもしれません。

構想とアングルは最高なのですが、この作品は全体的にとっても落ち着いた色調でまとめられています。もっと明暗のコントラストを強調し、ハレーションを起すほどの刺激的な表現ならどのような作品になっていたのだろうかと思像させられました。